



歯が少なくよく噛めない人は、

脳卒中・心筋梗塞や肺炎による死亡の危険性が、それぞれ80%以上高い

2003年に愛知県の65歳以上の健常者を対象に郵送調査を行い、その後4年間追跡できた4,425名のデータを用いて、どのような人が脳卒中・心筋梗塞、肺炎、ガンにより死亡したかを分析した。その結果、歯が19本以下でよく噛めない人は、歯が20本以上の人に比べて、脳卒中・心筋梗塞と肺炎（呼吸器疾患）による死亡のリスクが高くなることが示された。

連絡先 相田潤 東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野 助教
メール：aidajun@m.tohoku.ac.jp
電話：022-717-7639

<背景>

脳卒中・心筋梗塞、ガン、肺炎を含む呼吸器疾患は、先進国の主要な死因である。歯を失うことや歯周病によって、細菌感染と慢性の炎症反応や栄養摂取の変化が生じ、全身の健康に影響が現れることが分かってきた。しかし、先進国の主要な死因に歯や口の状態や機能がどの程度影響するのか、同時に比較されたことは無かった。

そこで、歯や口の状態や機能と、脳卒中・心筋梗塞、ガン、肺炎を含む呼吸器疾患の関係を明らかにすることを目的として追跡調査を行った。

<方法>

AGES (Aichi Gerontological Evaluation Study, 愛知老年学的評価研究) プロジェクトの2003年調査で愛知県に居住する65歳以上の健常者を対象としてアンケート調査を行った。

(<http://square.umin.ac.jp/ages/>)

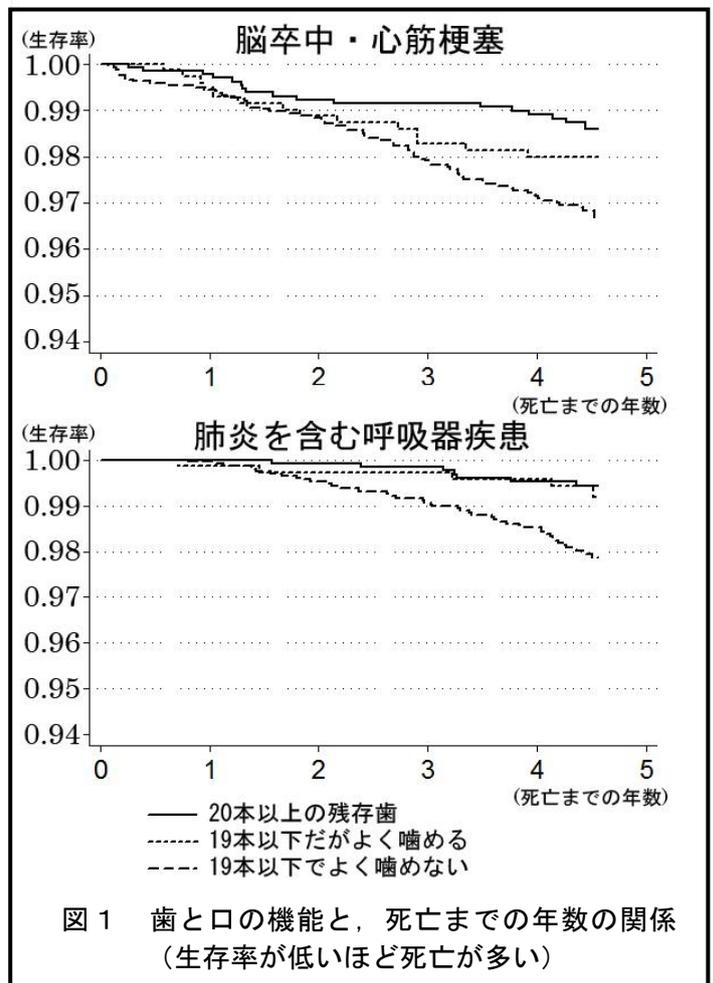
そして、4年間追跡できた4,425名のデータを用いて、死亡が発生するまでの日数と、歯数と咀嚼能力との関係を検討した。

<結果>

調査期間中に410名(9.3%)が死亡した。死亡の原因としては、ガンが159名(3.6%)、脳卒中・心筋梗塞が108名(2.4%)、呼吸器疾患が58名(1.3%)であった。

ガン(図1・上段)、脳卒中・心筋梗塞(図1・中段)のおよび呼吸器疾患(図1・下段)による死亡の割合は、歯が19本以下でよく噛めない人で高くなった。

年齢が高い人や全身の健康状態や生活習慣(喫煙・飲酒・運動)や社会経済状態が悪い人で「19本以下で良く噛めない人」が多いため、これらの違いや性別を考慮した場合(つまり全身の健康状態や生活習慣や社会経済状態が同等だとしても)、歯が20本以上の人に比べて、19本以下でよく噛めない人で脳卒中・心筋梗塞死亡の危険性が83%、呼吸器疾患死亡の危険性が85%増加した。しかし、ガンでは有意な差は認められなかった。



<研究の意義>

この研究の結果、歯を失うことや噛めなくなることによって、先進国の主要な死因である、脳卒中・心筋梗塞や、肺炎が多くを占める呼吸器疾患による死亡の危険性が高まることが明らかになった。歯を失う原因となる歯周病などの炎症が、脳血管や心臓血管に影響を及ぼして脳卒中や心筋梗塞を生じさせること、歯を失う原因になるむし歯や歯周病を引き起こす細菌が肺に誤嚥されて感染して肺炎を生じさせること、よく噛めないことで栄養状態が悪化して免疫力が低下して肺炎の危険性が高まることなどがメカニズムとして考えられる。

ガンは、種類により発生メカニズムが異なるため、歯の状態が影響しないガンも存在することが有意差の認められなかった理由の可能性もある。ガンの種類別の研究が必要だろう。

歯の健康を保つことが、先進国の主要な死亡原因のリスクを低下させる可能性が示唆された。今後、ガンの種類別の分析などのさらなる研究により、死亡リスク低下の詳細について明らかにされることが期待される。

<論文発表>

Journal of Dental Research の電子版にて公開（2011年7月）。紙媒体は2011年9月号（90巻）に出版決定。

Aida J, Kondo K, Yamamoto T, Hirai H, Nakade M, Osaka K, Sheiham A, Tsakos G, Watt RG. Oral Health and Cancer, Cardiovascular, and Respiratory Mortality of Japanese. J Dent Res 2011.

本研究は、文部科学省研究費補助金（基盤研究(B) (22390400)並びに (C) (22592327))、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）を受けて行った。